

2024年度(令和6年度) 新体力テストの結果

児童質問紙(第5学年)

運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは

	好き	やや好き	やや嫌い	嫌い
男子	68.0	20.0	8.0	4.0
女子	61.3	22.6	12.9	3.2

体育の授業は楽しいですか

	楽しい	やや楽しい	やや楽しくない	楽しくない
男子	64.0	36.0	0.0	0.0
女子	64.5	25.8	9.7	0.0

運動やスポーツをどのくらいしていますか
(体育の授業をのぞく) (%)

	週に3日以上	週に1～2日 くらい	月に1～3日 くらい	しない
男子	20.0	40.0	40.0	0.0
女子	45.2	29.0	25.8	0.0

体力・運動能力(第5学年)

	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	20m シャトルラン	50m走	立ち幅とび	ボール投げ	体力合計点
男子	16.48	18.52	33.84	39.92	57.12	9.09	158.28	23.64	54.60
女子	16.90	20.19	35.06	36.45	43.71	9.19	155.87	16.39	57.94

県平均値かつ全国平均値未滿

重点課題および要因

情意面

- 今年度の課題
- ・「運動やスポーツをすることが嫌い」という回答が、男女共に県平均より高い。また、体育授業が「楽しくない」と答える女子児童の割合が県平均より高い。
 - ・運動やスポーツをするのは、月に1～3日以下であるという児童が多い。
- 課題の要因
- ・日常の運動経験が少ない児童がいる。
 - ・運動する際、「失敗したくない。」という思いがある。運動において達成感が持てず、自信が持てない児童がいる。
 - ・地域スポーツクラブに所属している児童と、運動する機会のない児童の運動経験における二

体力面

- 今年度の課題
- ・男女とも、反復横跳びの記録が県平均・全国平均を下回る。令和5年度も同様の結果であり、継続して、「敏捷性」に課題がある。
- 課題の要因
- ・授業の中で敏捷性を鍛える運動が十分設定できていない。
 - ・一人一人に合った練習方法を選択して取り組むことができるような環境が整えられてい

重点課題等に対応した改善する取組内容及び方法

体育の授業で行う取組内容

- ① 運動の楽しさを感じられるメニューを授業初め等に実施し、興味・関心を高める。
 - ・様々な種類の鬼ごっこ等の運動遊びを学習に取り入れ、敏捷性を向上させると共に、運動に熱中し、楽しさを感じる機会とする。
- ② 敏捷性を高める体づくり運動をに適宜取り入れる。
 - ・ラダーやミニハードルを使用し、ステップを踏む等の運動を実施
- ③ 児童が自分に合った練習方法を選択し、目標に向かってステップアップするような学習活動を実施する。
 - ・児童が自分で練習方法を選択できるよう、環境を整える。
 - ・ステップアップカードを活用し、目標に向け、児童自身が練習方法を工夫したり、達成感を味わったりしながら活動できるよ

体育の授業以外で行う取組内容

- ①児童自らが運動遊びの機会を工夫して企画し、運動の楽しさを味わうとともに、運動の日常化を図る。
 - ・体育委員会により、「遊び集会」を企画し、運動遊びを促す時間を設けるとともに、敏捷性を高める運動をクラスルーム等で全校へ発信する。
 - ・児童による御野リンピックの企画・実施により多様な運動を経験させる。
- ②運動習慣づくり
 - ・生活チャレンジウィークを設定し、児童に自分の生活習慣や運動習慣を振り返らせ、改善に向けた意欲を持たせる。

2025年度(R7年度)の
重点目標値

- 運動やスポーツをすることが好きという児童を男女共に85%以上にする。
- 男女共に「反復横跳び」を県平均値かつ全国平均値以上にする。